

ポリシーブック 2014



JA YOUTH

J A 兵庫六甲 西神戸農業経営者協議会

J A 兵庫六甲 三田地域青壮年部

J A 兵庫南青壮年部会

J A たじま豊岡青壮年部

J A 丹波ささやま青年部

兵庫県農協青壮年部協議会

目次

組織名	ページ
J A兵庫六甲 西神戸農業経営者協議会	P. 1～3
J A兵庫六甲 三田地域青壮年部	P. 4～7
J A兵庫南青壮年部会	P. 8～10
J Aたじま豊岡青壮年部	P. 11～15
J A丹波ささやま青年部	P. 16～19

J A兵庫六甲 西神戸農業経営者協議会

ポリシーブック 2014

1. パート雇用について
2. 収益確保について
3. 経営管理について

1. パート雇用について

(1) ねらい

人手不足を解消し、経営者の心身の負担を軽減させ、仕事の効率や実績を向上させる。

(2) 現状

親の高齢化や後継者がいないことによる人手不足が深刻化しつつある。それにより、意欲や圃場があっても手が回らず、出荷数が向上せず、収益に結びつかない。

(3) 考え方

パート雇用による人的確保を行い、時間のロスを省くことで、仕事の効率化を図るとともに、経営面積を拡大させ収益を向上させる。

(4) 個人・青年部として取り組むこと

継続して仕事を与えることや、圃場にトイレを設置するなどの職場環境の整備、保険や労災などの保障制度を明確にする、定期的またはローテーションでの休日の確保といったパートに対する条件面を整える。

良好な人間関係を形成し、またパートのスキルアップを進め、作業効率を向上させると同時に、それにより事業を拡大し、収益を増加させパートを雇うコストをプラスにする。

(5) J Aと連携して行うこと

無料職業紹介所より人員を紹介してもらい、経営者が自ら募集する手間を省く。

講習会などを通じて、パートの知識や技術の向上を図る。

(6) 行政等へ要請すること

パート雇用を助成する仕組みの構築や情報の提供。

2. 収益確保について

(1) ねらい

販路、販売方法を見直し、コストの削減に努め、収益を確保していく。

(2) 現状

市場価格が低迷する中、現在の運営方法では収益の確保が難しい。

(3) 考え方

コストを削減し、販路、販売方法を見直し、また生産者や生産物のPRを行い、販売を促進させ収益を向上させる。

(4) 個人、青年部として取り組むこと

市街地にて、イベントなどに参加し、産地や経営者個人のPR活動を行い、認証の取得、食の安全などによる付加価値を付けての販売を行い、作ったものを捨てずに全てを売り切る。

品目を限定し、資材費や燃料費を削減し、また農機を購入ではなくレンタルにし、維持費の削減も行う。

(5) J Aと連携してやること

販売路の拡大に向けて新規の販売先の確保を行うことや直売所の店内を拡大またはレイアウトを変え、販売を促進する。

農機のレンタル、リースを行うことやコスト削減に向けて提案を行う。

(6) 行政等へ要請すること

認証食品の設定。

3. 経営管理について

(1) ねらい

経営をパソコンなどで明確に管理し、現状を正確に把握する。

(2) 現状

正確に情報を管理できておらず、経営の現状を把握できていない場合も少なくない。

(3) 考え方

パソコンなどで情報を管理し、正確な経営管理を行うことで、経営を向上させる。

(4) 個人、青年部として取り組むこと

パソコンで情報の収集や管理を行い、より正確に経営管理を行う。

農業は経営者の身体自体が資本である意味合いが強く、自己の健康管理を行うことが重要である。

自己啓発を行い、より良いビジョンを持って経営に向き合う。

(5) J Aと連携して行うこと

確定申告（青色）、年金情報やパソコンなどの勉強会を開催する。

融資の情報など経営相談を行う。

(6) 行政等へ要請すること

遊休農地の情報提供。

農業を行っている農地に対する税金負担の軽減。

J A兵庫六甲 三田地域青壮年部

ポリシーブック 2014

1. 農業経営について
2. 新規就農者の確保について

1. 農業経営について

(1) ねらい

中長期的に営農計画を立て、個々の農業経営の向上と安定化をおこなう。

(2) 現場の現状

- ・資材が高く、生産物の単価が安い。
- ・地域が地産池消を積極的に取り組んでいて、多品目に栽培し、直売所に出荷して販売単価を高くする努力がなされているため、個々の農業形態が異なる場合が多い。
- ・経営について勉強する機会が少ない。

(3) 考え方

各品目において組織化を行い、その組織の規模拡大を目指すことで、組織の構成員の技術向上、資材の有利購入、生産物の有利販売を可能とし、ひいては個々の経営レベルの向上と安定を実現する。

(4) 個人、青年部として取り組むこと

- ・肥料・農薬に対する知識を高め、土壌診断・適期施肥を行う事で、農薬散布等の回数を減らし、コスト削減に努める。
- ・消費者のニーズを調査し、作った野菜の効率的なPRを行う。
- ・小学校を中心とした食農活動を積極的に取り組む。
- ・経営の勉強会や現行の補助金・資金制度をきちんと把握し、有効活用できているか確認する
- ・定期的に農政学習会を開催し、理解を深める。

(5) JAに対する要請事項

- ・農機や資金についての融資の勉強会を行って欲しい。
- ・共同購入によるさらなる生産資材価格下げに取り組む。
- ・コスト低減を図る新品種の研究開発および飼育、栽培方法の確立に取り組む。
- ・様々な生産部会等があるが、まずはその組織の積極性や主体性を見極め、JAとして力を入れる組織を明確にし、組織の整理を行って欲しい。そして、力を入れる組織に対しては、計画をもって組織育成を行って欲しい。
- ・生産部会においては、現地講習会等の栽培方法の勉強会等を行って欲しい。特に、毎年、新規の生産者が入っている部会については、その個人に対して基本的な内容も指導してあげる必要がある。
- ・四季を通じた食農教育のイメージDVDを水稻以外にも作成する。

(6) 行政に対する要請事項

- ・資金調達のための勉強会をぜひ開いて欲しい。

- ・価格が国際情勢に左右される「原油」「リン」「カリ」については安定した価格で輸入できるよう努めていただくとともに、高騰時は対策資金等のスムーズな創設を希望する。
- ・生産部会の規模拡大のために、品目を絞るなどして補助金をさらに強化して欲しい。
- ・利用可能な補助金、特に、異常気象や獣害など有事の際において使える補助金などは、即座に調べられる必要も出てくるので、そういった場合に対応できるような検索システムを構築して欲しい。たとえば、市役所の農政課のホームページにおいて、困っている内容のキーワードを検索すれば、それに対して利用可能な補助金があればすぐにヒットするといったホームページの作成を行って欲しい。

2. 新規就農者の確保について

(1) ねらい

将来の三田農業のために、新規就農者を増やしたい。

(2) 現場の現状

- ・新規就農支援対策、または就農支援対策がうまく機能していない。
- ・新規参入、新規就農者は技術的にも経済的にも営農が不安定である。
- ・地元の後継者が農業を継がない。就農に踏み切れない

(3) 考え方

魅力ある農家の姿を見てもらい、もっと若者に農業をしてもらいたい。

(4) 個人、青年部として取り組むこと

- ・新規就農希望者の不安に思っていることを聞く機会を設ける。
- ・新規就農希望者に、自分たちのやっている農業を紹介する機会を設ける。
- ・農業で若者が頑張っているというイメージをもっと世間に持ってもらえるよう小学校を中心とした食農教育を実践していく。

(5) J Aに対する要請事項

- ・新規就農希望者がいれば青壮年部等に対して顔つなぎをして欲しい。
- ・農地や機械、資金の斡旋を充実させる。
- ・栽培品目の提案や栽培技術、販売方法など就農したての者に対しては徹底的に指導してあげる。

(6) 行政に対する要請事項

- ・新規就農の手引き的な情報物があると思うが、その情報を新規就農者が見つけら

れるまでに、様々なところに問い合わせるなどかなりの時間や労力を要する傾向があるので、どこに何の情報があるのかを教えてくれる新規就農者のための『総合窓口所』を開設して欲しい。また存在するならその『総合案内所』自体がどこなのか分からないために、もっとホームページでPRしたり、検索しやすくしたりし、また様々な施設で掲示するなど、新規就農希望者に対して探しやすくしてあげるべきだと思う。

・どんな就農希望者が訪問したか、その者がどういった作付を希望しているのかなどの収集した情報を、体系的にJAや青壮年部に提供していく仕組みを構築して欲しい。

J A兵庫南青壮年部会
ポリシーブック2014

1. 大型直売所運営について
2. 食農教育活動について

1. 大型直売所運営について

(1) ねらい

- ・各個人の収益を向上させる。
- ・生産規模の拡大と安定した収益の確保を実現する。

(2) 現状

- ・値段設定が安価で安売り競争になっている。
- ・店舗面積が狭い為、集客人数が少ない。(7店舗中5店舗)

(3) 考え方

- ・付加価値をつけるような作物を生産することにより、多様化した消費者に対しても魅力ある店舗を目指す。
- ・担い手コーナーの設置により、生産者のこだわり作物であったり、生産者の顔が見える安心・安全な作物を提供する。

(4) 個人、青年部として取り組むこと

- ・先進地へ視察を実施する。
- ・新規作物への取り組みをする。
新品種やこだわり作物を作付けし、商品化する。
- ・異業種交流会などに参加し、ネットワークを広げ幅広いノウハウを習得する。

(5) JA と連携して行うこと

- ・ファーマーズマーケットにて、青壮年部コーナーを作る。
- ・JA幹部と懇談会等を実施し協議をする。

(6) 行政として

- ・新品種の作付け等の提案指導を要請する。
- ・特産物開発の取り組みの提案指導を要請する。

2. 食農教育活動について

(1) ねらい

- ・地元の野菜等のPRをし、食の大切さを知ってもらう。

(2) 現状

- ・生産者と消費者との交流がなく、生産者がアピール出来ていない。

(3) 考え方

- ・イベント等を開催し、生産者と消費者(子供)の交流を深め “農業” 広くは “農” に対して興味をもってもらおう。

(4) 個人、青年部として取り組むこと

- ・イベント等を企画する。
- ・地域に呼びかけ参加を募る。

(5) JA と連携して行うこと

- ・参加者の募集を依頼する。
- ・取材等を依頼し広報誌(新聞)に掲載してもらい活動をPRする。

(6) 行政として

- ・行政に対しても取材等を依頼し広報誌(新聞)に掲載してもらい活動をPRする。
- ・助成金等の要請をする。

J A たじま豊岡青壮年部
ポリシーブック 2014

1. 技術（経営）について
2. 地域での農業に関する問題
3. 制度について
4. J A について

1、技術(経営)について

(1)現状

部員の主たる品目の違い、考え方、情報不足

(2)ねらい

各個人の収益の向上、農閑期の対策(能率及び効率の向上)、地域の活性化(遊休農地を有効利用)

(3)青年部としてのとりくみ

先進地への視察

勉強会(技術、経営、土地利用、本人と地権者の関係)

(4)JAとして

新規作物のブランド化、多方面への販売(ルートなど)

ファーマーズマーケットにて、青壮年部コーナーを作る。

(5)行政として

県に対して開示し、情報を集めてもらう。

社会福祉団体の活用

イベント等関連の紹介

PR活動・・・玄さん、りく姫、観光協会主催の祭り

補助金制度等の支援

2、地域での農業に関する問題

(1) 現状

後継者不足・・・高齢化により農業に携わる人の減少により、遊休地が増加し獣等被害の増大。

(2) ねらい

市民農園等遊休地の有効活用

(2) 青年部としてのとりくみ

組織の紹介、PR活動の強化(各イベントへの出店)

小学校との食農教育活動(未来の農業者に向けて)

多方面との交流、座談会、イベント

地域貢献(ビニール張り、ハウス建て、解体、作業受託)

(3) JA として

イベント等の情報提供

協力者への要請(イベント等)

(4) 行政として

連携不足(青壮年部として訪問、相談)

情報不足・・・減少の歯止め

獣の被害に対する支援、要請

施策に対して、情報を得る立場を作る。

3、制度について

(1)現状

制度資金が少ない(特に豊岡付近では)
わかりにくい、情報の開示がない。
土地条件、地域別でかなり大差がある。
国の農政に対する方針が定まっていない。(選挙の度に変わる可能性がある)
担当者の知識不足。

(2)ねらい

わかりやすい制度システムを作って欲しい。
窓口の透明性、簡素化して欲しい。

(3)考え方

勉強・話し合い

(4)青年部として

勉強会(税務署、市役所、市議、県議、その他(漁業、林業))

(5)JAとして

ハード面での支援の拡大(小型農機具のリース業、施設、獣害用ネット、柵)

(6)行政として

連携不足
税などのシステムの簡略化(その他申告、表示)
ハード面の支援の拡大(小型農機具のリース業、施設、獣害用ネット、柵等)

4、JA について

(1) 現状

全国的に全農(JA)の職員の知識の低下が目立つ。昔はもっとしっかりしていた。

(2) ねらい

営農指導員の知識の低下が目立つので、もっと現場に出て幅広く物を見せる。
つながりが密になってない。

(3) 青年部として

各事業を通じて、農協より出役してもらい農作業やハウス建て、ビニール張りなどの作業を通じて研修の場とする。

担当者を含め営農指導員は状況把握をさせ、育てる場を作る。

(4) 行政として

連携不足(担当者の交代が多い為)

(5) JA として

広域合併により大きくなったが、全体的にサービスが良くないと言われている。合併前は各単協毎にきめ細かい取組みが出来ていた。再度元に返って地域めざした取組みをして欲しい。

J A丹波ささやま青年部 ポリシーブック 2014

1. 鳥獣害対策の見直しと農地の有効活用
2. J A青年部の新規作物の取組み
3. 食育体験を通じた消費者交流への取組み

1. 鳥獣害対策の見直しと農地の有効活用

ねらい

- 獣害被害の軽減
- 獣害被害が大きい地域でも農業に取り組みやすい基盤作り

現場の現状

- 獣害がひどく生産意欲の減退につながっている。
- 獣害があるため休耕田などの不作付地になってしまっている。
- 獣害の出る地域でも小作料等は考慮されず、引き受け手が決まらない。

青年部としてのとりくみ

- 青年部員による狩猟免許の取得

行政等に要請すること

要請事項

- 狩猟免許の要件緩和や猟期延長
- 免許取得に対する補助制度の確立と捕獲料増額
- 鳥獣害対策の強化（補助金の増額）
- 中山間地支援の取り組み（小作料設定の見直し）

連携組織など

- 地域猟友会
- 市役所

2. JA 青年部の新規作物の取り組み

ねらい

- ・ 新規作物による年間所得の向上
- ・ 特別栽培米コシヒカリの取り組みによる販売高の増収

現場の現状

- ・ 長年、大規模農家向けの新規作物が定着していない
- ・ 特別栽培米への取り組みがなく、篠山というブランドのみの販売になっている
- ・ 加工品が少ない

青年部としてのとりくみ

- ・ 大規模農家のスケジュールに合わせた新規作物への取り組み
- ・ 一定量を確保した特別栽培米の生産
- ・ 六次化産業に向けた知識の向上

行政等に要請すること

要請事項

- ・ ハード面の支援（温湯消毒等）
- ・ 六次化産業の情報提供（農商工連携）

連携組織など

- ・ 市役所
- ・ JA
- ・ 県

3. 食育体験を通じた消費者交流への取り組み

ねらい

- 黒豆や黒枝豆の収穫体験により、消費者にブランドや歴史を認知してもらう
- 青年部員全体の応対力の向上
- 小学生と食農教育による交流や講習を行い、特産物の存続と農業の大切さを伝えていく

現場の現状

- 特産物販売のみで、体験や交流が少ない
- イベントへの参加で終わっている

青年部としてのとりくみ

- JA 直売所と連携し、集客を図り、黒豆・黒枝豆の収穫体験を行う
- 山の芋のグリーンカーテン栽培を行い、特産物を利用した栽培、収穫、調理体験を行う

行政等に要請すること

要請事項

- 食農教育を通じた資材の支援

実施時期

- 10月

連携組織など

- JA 直売所
- 市役所

